

JAL愛媛原告を支える会

あの空へ
帰ろう

ニュース

発行：JAL不当解雇とたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526

私も応援します

突然に起こった熊本の大地震は、私達の現在やこれから生き方を考えさせられる出来事です。辛い思いをされた多くの被災者の人達が、元の生活に戻るよう祈っています。

私は、社保庁不当解雇撤回闘争原告団の一人の母親です。全国で闘っている旧社保庁やJAL闘争団の仲間たちは、突然に仕事を奪われ失意と絶望感の毎日だったでしょう。

集会で「人間の歌」をいつも歌っています。仲間がいるから頑張れるんだという気持ちと、多くの人達に励まされ支えられて、これまで頑張ってきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。人生には、悲しいとき苦しいときに手を差し伸べる仲間がいれば、きっと切り抜けられると思っています。

仲間がいるから頑張れる

出原千重子

人間の歌

傷つき倒れた友の背に
まなざしそそぐ女はいるか
病み疲れた乙女のその掌に
ぬくもりそえる男はいるか

生きる悲しさ翼にかえて
人の喜び歌にたくして
私は歌う希望の歌
共にうたおう人間の歌

44年前に、ニューデリーの飛行機事故により亡くなった同級生の事を思い出しました。これから素晴らしい未来が待つていただろうに、本当に残念でした。命は何ものにも替えられないものです。空の安全は、航空業界最大の使命です。JALを解雇された、熟練パイロットや経験豊かな客室乗務員の権利とプライドを取り戻し、息子たちの復職を勝ち取るために、全国の闘争団の仲間達と支えあって希望を持ってたたかい抜きましょう。

犠牲となつた乗務員に捧げられた手記が胸に迫ります。「常にこんな危険と隣り合わせになつて仕事をする職場は、ほかに類を見ないた。

裁判所前宣伝で、原告の一人である出原さんのお母さんから、「私、JALのニューデリーアクシデントのとき同級生を亡くしているよ」と聞かされました。

ニューデリーアクシデントが起こつたのは私がまだ入社する前で、その中に愛媛県出身の乗務員がいたなんて知る由もなく、本棚を探し回つて、やつと組合の30年史の中に、その事故に関する記事を見つけました。まだ見習い乗務中の20歳。これからという若い命が、インドの熱砂の中で奪われていきました。

いつも変わらぬご支援、ありがとうございます。
愛媛の「解雇3兄弟」と呼ばれ、ともにたたかっている旧社保庁の分限免職撤回裁判の判決が、3月30日高松地裁で言い渡されました。判決は到底納得できるものではなく控訴が決まりました。それに先立つての裁判所前宣伝で、原告の一人である出原さんのお母さんは、歯型で確認するよりな

うほど損傷が激しく、真っ黒に焼けた頭部と胸部のみになつた彼女は、歯医者さんに残る歯型で確認するよりな

かった。・・・」

手記は最後にこう結んでいます。「多くの仲間を失い、旅客を犠牲にした事故を二度と繰り返さないために、私

のではないか。彼女の祭壇には、焼けただれ半分溶けたシートベルト、ぐにやぐにやに溶けた機内シート・・・。最悪の悲報は、彼女の遺体確認が最後になつてしまふほど損傷が激しく、真っ黒に焼けた頭部と胸部のみになつた彼女は、歯医者さんに残る歯型で確認するよりな

うほど損傷が激しく、真っ黒に焼けた頭部と胸部のみになつた彼女は、歯医者さんに残る歯型で確認するよりな

たち働く仲間が自らの安全のため
に闘う必要を強く訴えたい。」

私がJALに入社したのは1977年9月1日。それから1ヶ月

月もたたないうちに、クアラルンプールで事故が起きました。出原さんのお母さんは、一人の



(裏面へ続く)

西予市在住 大池ひとみ

元気に がんばる 原告



4月20日
社保庁合同県庁前宣伝



5月1日 愛媛中央メーデー



5月3日 愛媛憲法集会

命が失われることは、その方に関わる多くの人の人生を狂わせることがある、とおっしゃっています。

落ちる＝居ても立つてもいられない心境だつたのでしよう。我が子が遠い見知らぬ土地で、事故に遭はしないかと心配ばかりさせていたと思うと、一見華やかに見え

世界の片隅で、小さな飛行機が墜落したというニュースがあるた
びに両親は必ず電話をかけてきて、「お前が乗つとんやないかと心
配してかけてみたけど、生きとつたか?」 「そんなところにJALは
飛んでないから、大丈夫よ。航空会社を見たらわかるでしょう」 電
話がかかってくるたび、私はうんざりしながら答えていました。あ
ちこち海外旅行にも連れていったた
し、それなりに親孝行をしていた
つもりでしたが、今になつて考え
てみれば、親にとつて、飛行機が

落ちる＝居ても立つてもいられない心境だったのでしょうか。我が子が遠い見知らぬ土地で、事故に遭はしないかと心配ばかりさせていたと思うと、一見華やかに見えるパイロットや客室乗務員は世界一番の親不孝者なのかも知れません。

航空会社の使命は、「絶対安全」です。原点に戻つてそれを考へるならば、組合潰しや不当解雇、不当労働行為やマタニティハラスメントなんて、許されるはずがありません。不安全要素以外のなにものでもないからです。それを正していくのが労働組合の役割であり、亡くなつた仲間やお客様に対する償いだと強く感じます。

今月からWOWOWでドラマ「沈まぬ太陽」が始まります。加入されている方はぜひご覧ください。

山口宏弥団長の「安全な翼を求めて」(新日本出版社)も、「沈まぬ太陽」バイロット版として好評発売中です。一人でも多くの方々に真実を知っていただき、JALだけでなく、旧社保庁、旧周桑病院、すべての解雇された者が全員、誰一人欠けることなく、職場に復帰できるよう、更なるご支援をどうぞよろしくお願ひ致します。

私たちもぶれることなく、皆様の元気をいただきながら、ますますパワーアップして頑張つていきます。